

自然観察会・レポ

奈良県営馬見丘陵公園 (見る、味わう、
触る、聴く、考える、驚く)

小島 武雄

10月16日
(月) さわやかな秋晴れの朝9時30分近鉄田原本線「池部駅」に17名が集まりました。

久しぶりの、田代貢先生を迎えての自然観察会で

す。先生からの、いつもの資料が配布されました。今回もA3用紙にびっしりと書き込まれています。

曲がりくねったA-J往路道、K-Q復路道のイラスト横に並んで、12種類の葉っぱや種、実、オシベ、メシベなどの姿や断面の精密図が描かれていて、今日どんなお話が聞けるかわくわくしてきます。挨拶もそこそこに、すぐそばの植え込みからいきなり始まりました。

①ベゴニア(シュウカイドウ科)の花には蜜を出すのと出さないのがある! ②シンジュ(神樹、ニワウルシ)の葉には、蜜を出す箇所があるのを、ルーペで確認。③イヌビワの折った茎から湧き出すミルク。④ハナミズキの赤い実を取って、先端が4つに分かれている確認。⑤イロハモミジの種を2つに割って飛ぶ違いをやって見る。⑥ソヨゴの葉っぱを、クシャクシャ味見。⑦コナラの匂いにつられてスズメバチが集まってくる事。⑧シラカシとアラカシの葉の見分け方の基本ルールを教えてもらう。⑨樹木の葉っぱは環境に左右され、時に形が変わる



ので、観察のポイントにはならない。⑩ブタナの茎がたんぽぽと違う枝の分かれかたをしているなど、この後23種類くらいまで、まだまだたくさんあります。とても書き切れません。

味見はエノキの実、エゴノキの実、サルビアの蜜。触ってみるは、ロウバイの葉のザラザラ、トチノキの冬芽のネバネバの驚き。途中



先生から「これ、この話前にしたでしょう」途中先生から、「何回もここは、話していますよ!」「覚えていますか?」と、やんわりお叱りと、あきれ顔も。私たちの記憶がぼやけているのか、ほんとにぼやけているのか判断がつきません。先生の忍耐力に感謝です。そのあと、カタツムリがトンネルのコンクリートの天井にへばり付いている理由、蜘蛛の糸は引っ付くのと付かないのがある、樹木プレートの裏側は、イモリなどの隠れ家で、秘密の観察のポイントである事など。

おまけは、松ぼっくり傘の流れ様が植物の論理性を作っている1.1.2.3.5.8.13.21...フィボナッチ数???この数列を音階にした、素敵な音楽を聞かせてくださいました。

いつもながら、情報量の多さに、私の用意してきたメモ用紙が全部無くなってしまいました。昼食時間を30分に切り上げて時間オーバーで、午後3時15分にはスタートした池部駅に到着。とてもとてもたくさん、歩き、学び、楽しみました、お疲れさまでした。